

IPAX 2005 基調講演



# OSS 発展への期待と実践

2005年5月18日

日本OSS推進フォーラム 代表幹事 / (株)日立製作所 取締役

桑原 洋



# 1 OSSを取り巻く状況

---

## NTTグループ 人事情報システム

- 2001年10月稼動。無停止運転
- JavaがLinuxと相性が良いこと。Linuxへの積極的姿勢PR

## 新日鉄 高炉プロセス制御システム(君津製鉄所)

- 2001年5月稼動。無停止運転
- 20年使い続けるシステムで、OSの細部にわたりメンテナンス可能
- コスト 3億円 1億円に削減(ハード、ソフト)

## 東京三菱銀行 基幹系システムの端末

- 2005年稼動予定
- システムの信頼性(メンテナビリティ)とTCO削減

## 大学病院医療情報ネットワーク 研究センター

- 2002年1月稼働。会員数15万人。月間1,000万ページビュー
- LinuxベースPCサーバによるコスト低減と拡張性

## 理化学研究所 大型計算機センター

- 2004年3月稼働。理論性能12.4TFLOPS。世界最高速PCクラスタ
- Gridコンピューティング環境が揃っているのはLinuxのみ

## 住友電工

- 2000年7月から順次稼働。80システム、300台のLinuxサーバ
- 受発注、購買、生産管理、固定資産管理、人事・給与・経理等の基幹情報システムを低価格で実現。安定稼働中



## 2 日本OSS推進フォーラムの活動状況

---

## 組織構成

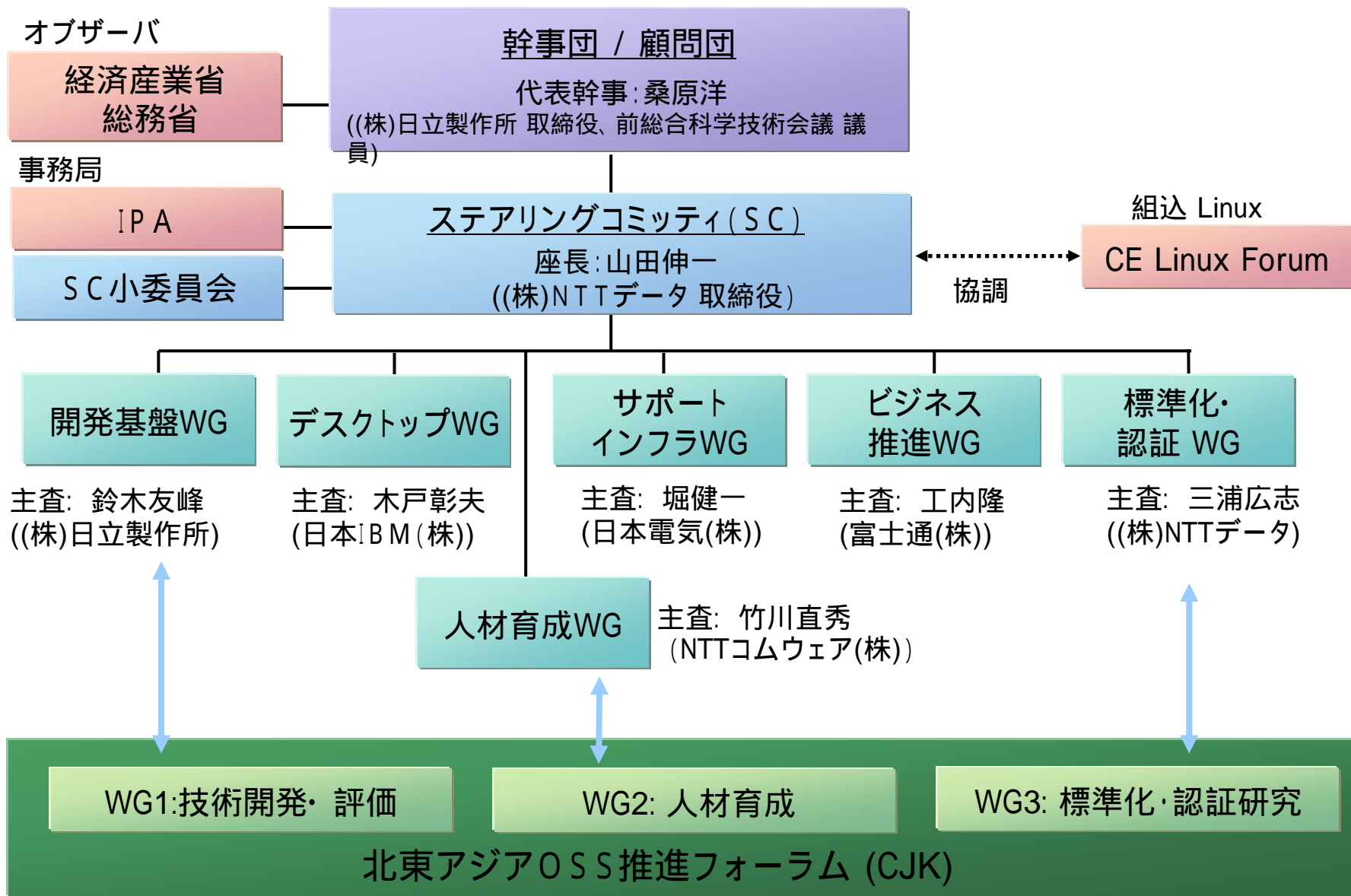
- 2004年2月設立
- 幹事団7名、顧問団14名(企業・団体のトップ、学識経験者で構成)
- オブザーバとして経済産業省、総務省。事務局 IPA

## 設立背景

- 2003年9月の日中韓経済貿易大臣合意及び日中韓IT担当大臣合意、11月の日中韓オープンソースビジネス懇談会の成果  
日本を代表してOSSについて国際協力していく団体が必要  
OSS普及について民間の意見を集約する場が必要
- OSSのシステムへの適用の進展  
ユーザが安心してOSSを利用するための技術的、制度的課題  
解決の必要性

## 設立目的

- 政府、民間で協力することによる日本国内でのOSS普及拡大
- ユーザが安心して使えるための技術的、制度的課題の解決と  
新たな選択肢の提供
- 日中韓、世界のコミュニティとの協調によるOSS発展への貢献



## 「政府システム調達におけるOSS利用の促進」に関する 政府への提言(2004.11 e-Japan重点計画特命委員会)

- 各省システムにおけるOSSの導入実績の開示
- OSSのメリットを活かせる政府調達における  
ソフトウェア調達の考え方の提示
- 先導的なOSS導入プロジェクトの実施
- OSSの普及のために、調達時に、サポートサービスに対する  
適切な対価の設定

## OSS政府調達ガイドラインの作成、実証実験

- 政府・自治体のシステムでOSSを調達する際の記述例の提示
- 学校でのOSSデスクトップ利用実証実験提案

## OSSに関する解説ドキュメント、ガイドラインの作成

- OSS性能、信頼性評価、障害解析ツール開発
- OSSが開発コミュニティからユーザに届くまでの仕組み
- 法的リスクに関する解説
- OSSのTCOガイド

## OSSに関する国際協力(主に中韓)の推進

- 北東アジアOSS推進フォーラムの実施による情報共有
- 共同技術評価、技術開発の検討 (WG1)
- 人材育成、コンテストの実施 (WG2)
- 標準化の検討と推進 (WG3)



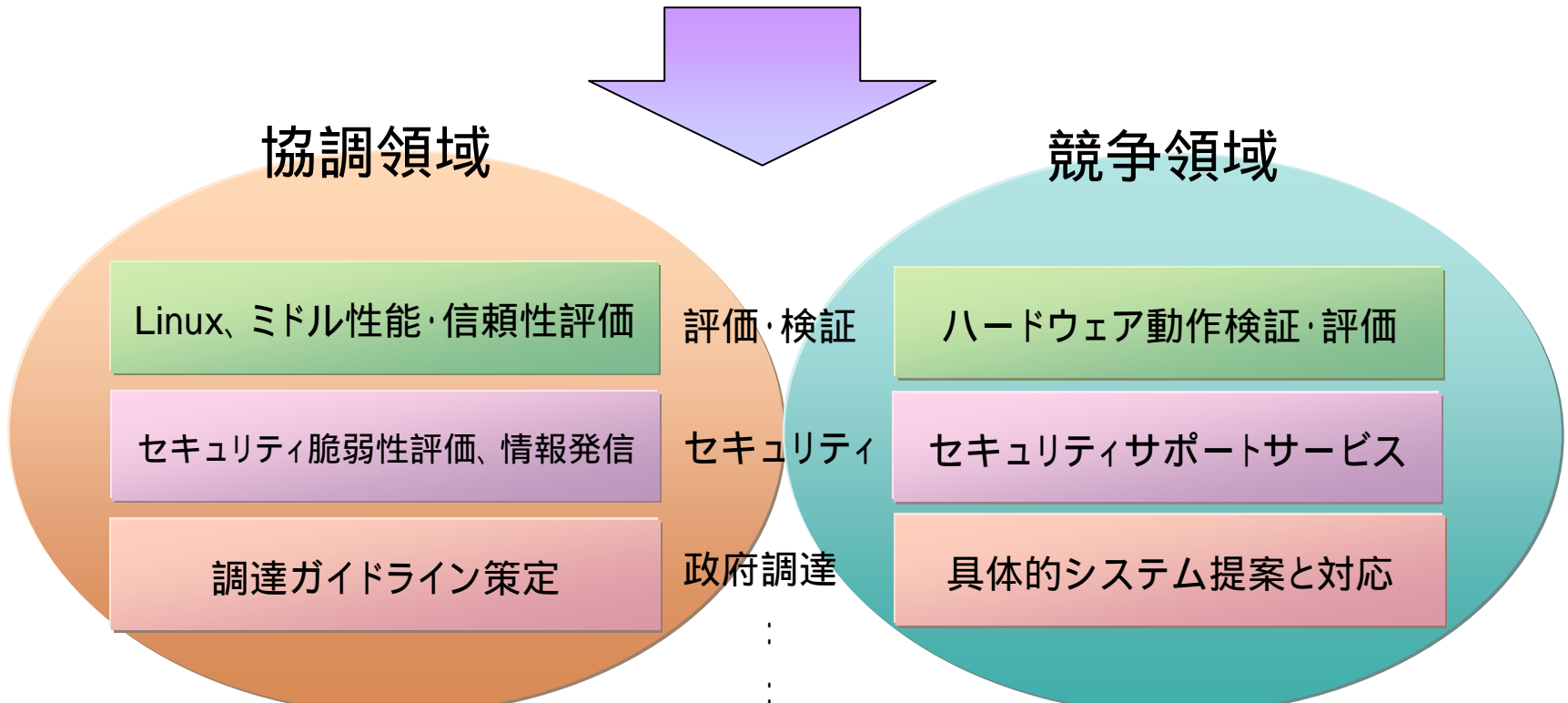
# 3 OSSへの期待と実践

---

## OSS発展のためには・・・

1. ユーザ導入意欲を高めることが重要。ゆえに、ユーザにどういったメリットがあるのか整理していく(ユーザに安心して使える環境を提供)
2. 皆でやっていこう、なぜなら同じようなことをやっても仕方ない
3. 競争がないと駄目。競争と協調のバランスを考えていく必要がある
4. 技術・機能的にも先進的であることが必要。技術的に後追いでは駄目
5. 短期間で移行できるよう、既存技術・機能と親和性があることが重要
6. 政策制度面での条件整備も重要

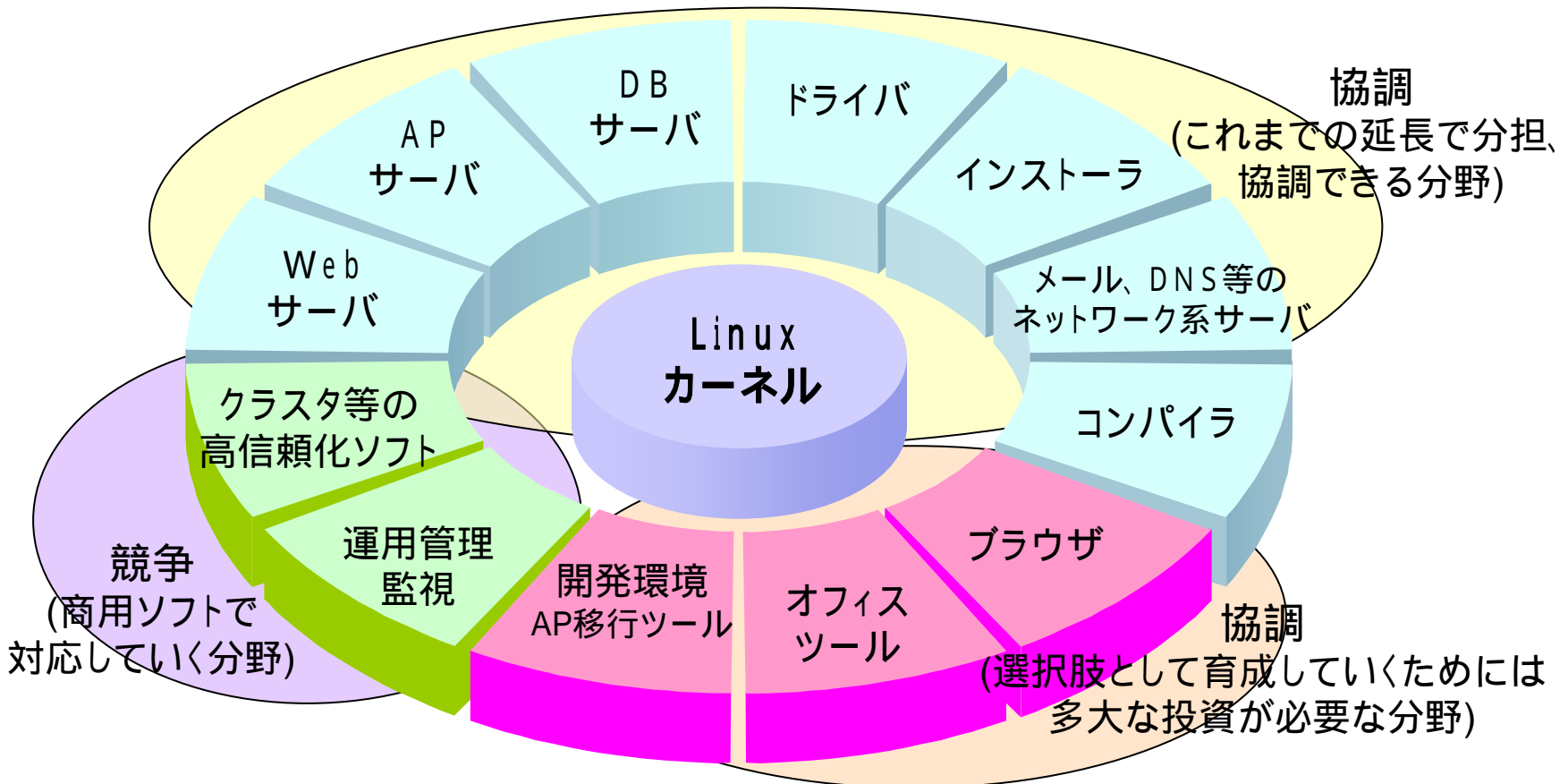
協調と競争のバランスを考えていく必要がある



競争領域と協調領域についてよく議論し、協調できる所は協調していくことがOSSのメリットを生かしていく上で重要

そもそも、1つのOSにのめり込んでいくなれば

- ・皆でよいものにしなければならない(これには多大なコストがかかる)
- ・分担する所、特定ベンダに任せる所(サポートは皆で実施)を分けないといけない  
明確なロードマップを作成し、これを皆で共用して進めなければならない




## サーバ分野のOSSの普及でやるべきこと

- 先進的機能・性能の提供をロードマップを持って推進していく
- 協調する所は協調してビジネス(産業)として成り立つよう育成すること
- OSSに対するユーザの不安を解消すること(事例の公開、法的リスク)

## クライアント分野のOSSの普及でやるべきこと

- 専用端末などは、今でも問題ない
- 目標設定して推進する必要があるだろう
  - いつ頃から、一般ユーザに対する商用OSと並ぶ選択肢とするのか？

## 最終的には

- 
- ユーザメリットの確保:安全/安心、自由、安価、先行
  - 効率的なビジネス環境の確保

# END

## OSS発展への期待と実践

2005/5/18

日本OSS推進フォーラム 代表幹事 / (株)日立製作所 取締役  
桑原 洋

